

〔国際会議〕

申 請 者	東京大学大学院工学系研究科 教授 廣瀬 明	2025009
研 究 集 会 名	Asia-Pacific Conference on Synthetic Aperture Radar (APSAR) 2013	
開 催 期 間	2013 年 9 月 23 日～9 月 27 日	
開 催 場 所	つくば国際会議場（茨城県つくば市）	
申請者の役割	組織委員長	

概 要：

本会議は、合成開口レーダ（SAR）全般を対象としたアジア・太平洋（以後 AP と呼称）地区を中心とする国際会議である。SAR は、地球温暖化や自然災害等による地球表層変化の把握・地雷等の地中埋設物探査・非侵襲生体計測・非破壊検査・車載応用等の極めて多岐に亘る分野において、必要不可欠な要素技術であり、「人間と機械（電磁波計測器）との調和」を実現する重要な技術である。本会議で扱う研究分野は、エレクトロニクス・地球科学・情報工学等の幅広い研究分野にまたがる。本会議の歴史はまだ浅いが、それ故に現在の多種多様な研究動向に柔軟に対応可能であり、高度な専門性を保ちつつ、分野間の研究協働を促し、新たな研究領域を創出する場を提供する。

本会議では、Plenary session において、6 名の世界的に著名な研究者による特別講演がなされ、衛星観測による地球環境計測や大規模災害への対策等、多くの SAR 関連の研究者にとって非常に貴重な情報が提供された。また、世界中から注目されている次期地球観測衛星 ALOS-2 の打ち上げプロジェクトが 2013 年度末に予定されていることもあり、上記プロジェクトを担当している宇宙航空研究開発機構（JAXA）を中心に、ALOS-2 に関するスペシャルセッションも併せて企画した。また、当該分野における優秀な若手研究者（学生および一般）を発掘し支援することを目的として、Student Paper Competition（SPC）と Young Scientist Award（YSA）の顕彰を実施した。具体的には、SPC 及び YSA とともに Abstract 査読で 10 名の finalist を選考し、full-paper 論文と発表を選奨委員会が評価した。最終日には、JAXA つくば宇宙科学センターへのテクニカルツアーを実施し、日本の宇宙科学の最先端を間近に見学してもらった。全体を通して多くの参加者から充実した会議であったと評価を得た。